

テーマ:

身の回りの環境に主体的に関わり 豊かに思いを表現する子どもの育成

埼玉県
狭山市立
山王小学校
中桶先生



この活動の特徴



「凜々子」活用のポイント①

特別支援学級の児童の生活上の目標を設定し、栽培を通して喜びや達成感を味わった

「凜々子」活用のポイント②

保護者も巻き込み、栽培から調理までまた、生活・学習の観点からも凜々子を総合的に活用した

活動のねらい



特別支援学級におけるトマト(凜々子)の栽培活動の実践を通して、身の回りの環境に主体的に関わり、豊かに思いを表現する子どもを育成する

活動の概要と流れ

対象学年 : 特別支援学級全学年 (13名)
実践期間 : 4~10月

時期	学習活動
4月	保護者参観日に「夏野菜栽培」の計画を立てる
5月	苗を観察してから、なすやきゅうりなどと併せて定植 毎朝観察し、困ったことや面倒なことをみつけては 児童の主体的な意見や思いを引き出し、対策を実践する 「トマトの身長計」を作り、凜々子の生長を目で見えるようにする
7・8月	実ったトマトをトマトピザにして自分たちで味わう 収穫したトマトを冷凍保存する
9月	「おうちの方にごちそうしよう」をめあてに設定し、土曜参観で調理 カレーパーティーを実施



ここがポイント！ 取組の工夫と実践の成果

児童の主体的、自立的行動を引き出す目標をもって栽培開始

児童の興味関心が高い「食べること」につながる栽培活動を通して、児童が生活上の目標を達成したり、一連の活動を組織的に経験したりすることによって、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習させることに取り組みました。

保護者にも栽培活動の流れを知ってもらおう

大型連休前の4月、「夏野菜栽培」の計画を立て、トマトの収穫までの道筋を確認して、どんなお世話が必要か、いつごろ収穫できるか、収穫したトマトをどのように味わうかを話し合いました。この授業は保護者参観で行い、保護者にも流れを知ってもらいました。

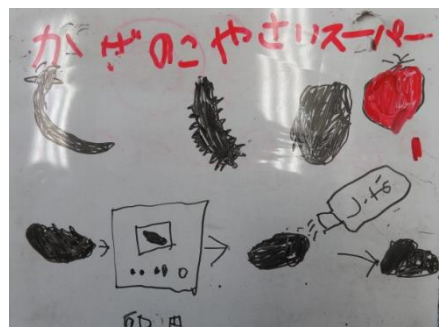
日頃わが子の学習の成果をテストや作文といったもので確認することが少ない保護者にとって、このような内容の授業は、子どもたちの学習に興味関心を持ってもらうよい機会です。一方で子どもたちにとっては、収穫した凜々子を持ち帰ることで、凜々子のお世話をがんばったことを保護者に認めてもらう機会となります。

栽培を通して、主体的な活動が見られるようになった

届いた凜々子の苗をきゅうり、

なす、ピーマンなどと一緒に畑に植えて比較栽培しながら、代わる代わる実がつき長期間の収穫を楽しめるようにしました。また、教室の前を学級園にして栽培過程の変化を見つけやすいような環境も整えました。

子どもたちは登校するとまず野菜の様子を見に行くようになり、教師に促されて水やりをしていた児童も次第に水をやりながら凜々子に話しかけたり、絵本で野菜について調べるようになったりしました。雑草が生えてきたら「どうする？」と話し合い、みんなで草を抜いたり、葉っぱに虫がついているといち早く知らせるようになった子どももいました。また、栽培活動の中から自然に会話が生まれ、言葉の発達がゆっくりな児童も単語やしぐさで感情を伝える行動が見られるようにもなりました。



記録と表現の方法に工夫をこらす

植物の時間の経過による変化を理解しにくい児童にもトマトの生長がわかるように「トマト身長計」

を作ったり、「トマトカレンダー」で収穫した個数を目で見て確かめられるようにしました。また、子どもたちの「楽しかった」「がんばった」「うれしかった」などの感情表現を助けるため、適切な表現方法を指導し、五感（目・鼻・耳・口・手）カードを掲示し、表現する時に視点を明確にできるようにしました。



先生から一言！ 実践を通して

特別支援学級の児童は周りの大人や友達に助けてもらうことが多く、どうしても自分ひとりの力で何かやりきる経験が少なくなってしまう。しかし、今回のように「自分が一生懸命努力したことで何かを変えることができる」という経験を積み重ね、主体的に行動することの喜びを感じてほしいと願っています。栽培活動は、教師の工夫次第で子どもたちに自分から行動するきっかけを与え、言葉、数、コミュニケーションなどの力を伸ばし、丈夫な体を作り、生活に潤いをもたらす教材になると考えます。

受賞理由

児童の主体的、自立的な行動を助ける数々の工夫を生み出した先生の情熱に感動しました！ 自らの手で野菜を栽培するうちに、子どもたちはさまざまな思いや感情を持ち、それを友達やおうちの方に伝えて共感してもらい、共感するといったことに生きる喜びを感じ取ったに違いありません。